

自衛艦旗（旭日旗） について

柴田 幹雄 陸自75

近年韓国がらみで自衛艦旗（旭日旗）

の話題が良く出る。自衛艦旗は帝国海軍の軍艦旗と同じデザインで、かつての軍艦旗と同様の地位にある。海上自衛隊創設以来使用しているが、以前は問題になることはなかった。2011年のサッカー日韓戦で、ある韓国選手がゴールをしたとき日本人を侮辱する際に良くやるサルの真似をして響聲を買った。その言い訳としてスタンドの旭日旗を見て腹を立てて行ったと述べたが、これを発端にして旭日旗が攻撃の矢面に立たされるようになった。極めつけは、今年の韓国での観艦式に自衛艦旗を掲げないでくれという連絡があった。結局防衛省は観艦式参加を取らやめたことだった。

軍艦旗とは、国旗の他にその国の一般の船ではなく軍艦であることを示すために掲げる旗である。多くの国の海軍は当然に国旗と別に軍艦旗を保持している。自衛艦旗は、自衛隊施行令で、規格が定められている。米国は軍艦旗として別のデザインはなく、星条旗を掲げている。海上自衛隊が発足するに

際し、自衛艦旗をどうデザインするか東京芸術大学に意見を求めたが、日章旗との関係、色彩の単純明快さ、海の色との調和など、かつての軍艦旗がすべての条件を満たしているとの答えであった。有名な画家米内徳豊に新デザインを依頼したが、悩んだ末にこれ以上のものではないと海軍が使っていた軍艦旗とおなじデザインを提出したという。しかしながら終戦から間もない当時、大東亜戦争を想起させるといふ反対意見があるのではと多少の躊躇があった。しかし、吉田茂首相が「世界中でこの旗を知らない国はない。どこかの海にあっても日本の艦（ふね）であることが一目瞭然で誠に結構だ。旧海軍の良い伝統を受け継いで、海国日本の護りをしっかりとやってもらいたい」と述べたことにより、その危惧は払しょくされ、全く同じデザインの自衛艦旗が誕生した。

自衛艦旗は国際法上も国籍と軍所属の船であり、その艦艇内は治外法権であることを示す旗である。つまり国旗に準ずるものであり、部隊の位置を示す連隊旗、隊旗等とは意味合いが異なる。自衛隊の礼式では停泊中の自衛艦は朝課業開始時にラッパ君が代とともに自衛艦旗を艦尾に掲揚し、甲板上の自衛官は自衛艦旗に敬礼をし、艦内のもは艦尾に向かって姿勢を正す。ま

さに国旗の扱いなのだ。若いころに乗艦実習で艦に乗り込む際艦尾に向かつて敬礼をせよと指導されたことを思い出す。陸上自衛官にはあまり認識がないように思われるが、儀式などで軍艦旗が目前を行進する場合も国旗と同様敬礼しなくてはならない。自衛隊の礼式に関する訓令日条15には以下のように記してある。「自衛官は、国旗又は自衛艦旗が自衛隊の施設若しくは儀式の式場等において掲揚され若しくは降下される場合又は隊の捧持する国旗等がそばを通過する場合は、これに対して敬礼を行うものとする」。くれぐれも欠礼のないように。

自衛艦は、停泊中や通常の航海中は艦尾に自衛艦旗を掲げるが、作戦行動もしくは戦闘訓練などの際はマストに掲げる。艦艇の写真を見て自衛艦旗の位置を見ればどのような状況かが分かる。

民間船は一般に軍艦に対しては旗の敬礼をする。決まりではないが公海航路上の安全を確保してくれる軍艦に対して感謝の気持ちと敬意を表すため行う。しなくても別に罰則などは無い。民間船は船尾に国旗を掲げているがこれを少し下げ半旗のような状態にする。これを敬礼をする。これを見た軍艦も軍艦旗を半分下げて答礼し、また上まで掲げる。その際国際信号旗で「御安

航を祈る」をマストに掲げる。それを確認して民間船は旗を上まで揚げて敬礼・答礼が終わるのである。

ある海自の先輩に聞いた話だが、日本船籍の船は海自の自衛艦に敬礼しなかったという。大東亜戦争中、艦隊決戦ばかり追求した日本海軍は船団護衛をなおざりにし、輸送船はほとんど丸裸で部隊や物資輸送に携わり、その結果船舶、船員は大きな犠牲を払った。そのやりきれない思いがあつて軍艦旗と同じ旭日旗を掲げる自衛艦に敬礼をしなかったのではないかとこのだ。

だが最近状況が変わった。ソマリアの海賊対処行動で海自が護衛艦と哨戒機を派遣してアデン湾海域をパトロールし、船団護衛も行っている。2008年からだからもう10年も任についている。2015年からは第151合同任務部隊司令に海自の海将補がついて各国の艦艇・航空機を指揮している。

こうした公海上の秩序維持に尽力していることから、日本船主協会と海上自衛隊とのわだかまりも消え、現在ではほとんどの日本船籍の船が護衛艦に敬礼してくれるとのこと。その先輩いわく「海自は軍艦旗も含め日本海軍から多くのものを引き継いで育てられたが、船団護衛だけは我々が先輩方の尻ぬぐいをしたんだ」と。